

## イエスのことば 第26回

「あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。持っている人は与えられてもっと豊かになり、持っていない人は持っているものまで取り上げられるのです。わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。」(マタイ 13: 11~13)

### □イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

### □文脈の確認

1. 「承」の部において、12 の権威を見た。
2. 続いて、ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。この後、「承」の部の結末、メシア拒否に入った。
3. 拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。獄中にあったヨハネは、イエスが本当にメシアかどうか迷って、イエスに質問を送った。しかし、イエスはヨハネを高く評価し、彼はメシアの先駆者としての使命を完全に果たしたと語った。そして、真の問題は、ヨハネとイエスを受け入れようとしぬ指導者層にあると教えた。
4. イエスは、多くのしるしを見せてきたガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰を責めた。そして、拒否を目前にしていた時期における出来事が 2 つあった。
  - (1) 指導者層のひとりが、イエスを批判する口実を見つけようとして、イエスを食事に招いた。このとき、ある一人の「罪人」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示した。
  - (2) 第 3 次宣教旅行。イエスは拒否を目前にしてもなお、神の国の福音を宣べ伝え続けた。このとき、多くの女性たちが自分の財産をもって一行に仕えた。
5. そして、ついに指導者層が公式に、イエスをメシアではないと拒否した。理由は「イエスは汚れた霊につかわれている」であった。イエスは、その理由を 4 つの点で論破し、この拒否を「聖霊を冒瀆する罪」と呼んだ。この民族的な罪は、2 つの結果をもたらすことになった。
  - (1) この世代のイスラエルに提供されようとしていた神の国は、将来の世代に
  - (2) この邪悪な世代に対しての裁き（紀元 70 年、エルサレム陥落・神殿崩壊）

6. 指導者層による公式の拒否を受けて、イエスの宣教活動には、大きな変化が起きた。そのような変化には、二つある。一つは、しるしに関して、もう一つは、教え方に関して。前回は、イエスが、しるしに関する新しい方針を、指導者層に示した出来事であった。今後、イエスがメシアであることを示すしるしとしてイスラエル民族に与えられるのは、「ヨナのしるし」のみ、すなわち復活のしるしのみであると、言われた。

□今回は、変化の二つ目、教え方について、である。

1. マタイ 13 : 1 **その日・・・指導者層が公式にイエスを拒否した日、その日である。**
2. マタイ 13 : 3 **イエスは彼らに、多くのことをたとえで語られた。**
3. マタイ 13 : 10 **すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに「なぜ、彼らにたとえでお話しになるのですか」と言った。**

教え方は、ストレートで分かりやすく教える方法から、たとえ話を用いる方法に変わった。その目的は何か、弟子たちも戸惑って、イエスに尋ねた。本日のイエスのことばは、弟子たちの質問に対するイエスの応答である。

1. マタイ 13 : 11 **あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。**
  - (1) その日のうちに、イエスは 9 つのたとえ話を連続して語った（その詳細については、2022年6月18日の福岡集会の資料を参照ください）
  - (2) そのテーマは、「天の御国の奥義」であった。イエスが、たとえ話を用いた目的は二つあった。
    - ① **あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されています・・・**目的の第一、弟子たちには効果的に理解させること。イエスは、群衆にたとえで語った後に、弟子たちには意味を解説した。たとえ話に解説が加わることで、「奥義としての神の国」について、あたかもイラスト付きで理解させるような効果がもたらされた。
    - ② **あの人たちには許されていません・・・**目的の第二、群衆には、たとえ話を語ったところで止めて、「奥義としての神の国」の情報を隠す。
2. マタイ 13 : 12 **持っている人は与えられてもっと豊かになり、持っていない人は持っているものまで取り上げられるのです。**
  - (1) **持っている人は = 【イエスをメシアとして信じる信仰を持っているユダヤ人=弟子たち】、与えられてもっと豊かになり = 【永遠のいのちを与えられて、神の国の奥義を知らされ、メシアの王国に入る】**

- (2) **持っていない人は**＝【イエスをメシアとして信じる信仰を持っていないユダヤ人＝イエスを拒否した指導者層と群衆＝聖霊を冒瀆する罪を犯したこの世代のユダヤ人】、**持っているものまで取り上げられる**＝【メシアの王国に入れないばかりか、今持っているもの、すなわち、ローマ帝国の属領下ではあるが平和と繁栄、制約はあるものの自治権、エルサレムの神殿祭儀、財産と生命の保障など、を失う（→紀元70年のエルサレム陥落）】

3. マタイ 13:13 わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。
- (1) 彼ら＝イエスを拒否した指導者層と群衆に、イエスがたとえて話すのは、彼らが、見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないから。
- (2) 彼らは、何を見てきたのか、何を聞いてきたのか。イエスのわざと教え、承の部でこれまで見てきた12の権威である。
- (3) 彼らは、何を悟らなかったのか。イエスが、旧約聖書で預言され、イスラエル民族が待ち望んできたメシアである、ということ。

#### □二つの変化について

1. しるしに関して・・・イエスは、その後も奇跡を行った。
- (1) ご自身がメシアであることを示すしるしとして・・・弟子たちに対して示すしるしである。イスラエル民族に対してのしるしは、ヨナのしるししか与えられない。
- (2) 癒やしなどの奇跡・・・それまでの奇跡は、ご自身がメシアであることを示すしるしとして公然と人々の面前で行われた。そのとき、癒やしなどを受ける人の側にイエスをメシアとして信じる信仰があるかどうかは、問われなかった。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスはもはや公然と奇跡を行わない。**人々の目のつかない場所に移動して行い、かつ、受ける人の側に信仰があることが条件**となる。
2. 教え方に関して
- (1) 人々に教えるときは、たとえ話で語るようになった。
- (2) メッセージの内容も変わった。それまでは、イスラエルの各地を巡り、町々で、ご自身がメシアであると宣言し、だから神の国は近づいたと説いた。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、**イエスをメシアであると宣伝することは禁止**される（たとえば、マタイ 16:20）。この沈黙の方針が撤回されるのは、マタイ 28章 18～20節の大宣教命令においてである。